

おかえり

特集

◆ 住み慣れた匹見へUターン
田舎でのびのび子育て中

◆ 交流から滞在、そして定住へ

- 民泊
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業

住み慣れた匹見へUターン 田舎でのびのび子育て中

退職後、自宅を活用した農家民泊を開業し、地域内外の方と交流を楽しんだり、田畑で汗を流したり…。そんな夫婦水入らずの時間を味わっていた寺戸倉雄さん(66)と秀美さん(67)の暮らしが一変したのは、1年半前のこと。長男の顕太郎さん(37)家族のUターンが慌ただしく決まり、家族6人の生活が始まったのです。



(左から)寺戸倉雄さん、顕太郎さん、梨華ちゃん、元子さん、俊太君、秀美さん

益田市匹見町澄川。

地名そのままの匹見川が流れる大自然の中で、中学まで暮らした顕太郎さん。高校3年間は市内で寮生活、その後県外の大学へ進学しました。

もともと田舎思考で、希望の仕事があればすぐにUターンしたかったようですが、夢叶わず、大学卒業後は倉敷で就職。利便性が良く田畑もある環境で人も親切。倉敷の住み心地は良かったものの、「将来Uターンする」気持ち揺るがなかったと言います。それを大き

く後押ししたのは、元子さん(35)との結婚、出産、そして子育てでした。

【突然の朗報】

同じ益田市出身の元子さんは、結婚を機に倉敷へ。長女の梨華ちゃん(2)が生まれると、親元から遠く離れた土地で初めての子育ては不安だらけでした。そんな元子さんを支えようと、秀美さんは元子さんのお母さんと半月交代で、産後の手伝いで倉敷へ行きました。訪れた際、「いずれ益田へ帰ればいいね、という感じで話はしたかもしれない」と秀美さんは回想します。

それから半年経った平成28年2月頃、顕太郎さんから電話が入ります。「帰る日が決まったよー」と開口一番。倉雄さんと秀美さんは突然の朗報に驚きを隠せません。「帰るにしても、益田市内にアパートでも借りて住めばいいわ」と思っただけを聞いていたら、「同居する」と聞いて二度ビックリ。

「子育ては田舎で」というのが、若い2人の共通意見。「いずれ実家に帰る予定だったので、最初か



自身が手がけた車庫の前で

ら同居したほうが地域とのつながりも深まると考えて」と顕太郎さん。同居にあたり元子さんは、「お義父さんとお義母さんが楽しんでこられた民泊ができてくくなり、生活リズムも変わってしまったのが申し訳ない」と心配していました。が、「家族みんなと一緒に暮らすほうが優先だよ」。そう言って、倉雄さんと秀美さんは喜びの気持ちを伝えました。

この時点で帰郷後の顕太郎さんの就職先は決まっています。30代半ば。転職するにはぎりぎりの年齢。退路を断ち、「まずは帰郷して、必ず仕事を見つけたら、必ず仕事を覚悟でした」。

【ジイバアの役目】

倉雄さんと秀美さんはそれからが大忙しでした。手狭な自宅から不要な物を捨て、数か月後に迫ったUターンに向け、家のリフォームに着手したのです。

また、田舎暮らしには自家用車が必要のため、「2台分の車庫が必要」と、倉雄さんは持ち前の器用さを生かして、杉の丸太を使った車庫を完成させました。

平成28年6月。顕太郎さん家族が帰郷。引越しの慌ただしさの中で顕太郎さんの就職先も無事に見つかりました。

倉雄さんと秀美さんの生活は一変しました。2人暮らしのときは朝7時起床だった秀美さん。それが現在は5時過ぎには起きて、朝ご飯の準備に大忙し。洗濯も1日に2、3回はこなします。

秀美さんが家事担当なら、倉雄さんはお孫さん担当。倉雄さんがテレビを見ていると膝の中に梨華ちゃんが入ってきます。大好きなジイジの膝の中が定位置です。

「目の中に入れても痛くないね」と、目を細めます。

「家族が増えていろんな会話ができてとても楽しい。好奇心旺盛な孫の姿を見ると、子どもの能力や感性はすごい！と感心する。自分が子育てをしたときには感じなかった気づきがあるしね。ジイバアの役目は孫の感性を伸ばしてやること。これはダメ、あれはダメとは言いたくないね。嫁は息子夫婦が何とかするだろうから」。普段、口数はそう多くはない倉雄さんもお孫さんの話となると、愛情が溢れます。倉雄さんも秀美さんも、お孫さんの声が聞こえる今の生活が「とにかく楽しい」のです。

【子育ては田舎で】

匹見川を隔て自宅の向こう側に建つ顕太郎さんの学び舎、旧澄川小学校。平成18年3月に閉校したため、梨華ちゃんと俊太君は将来、匹見小学校へ通うことになりました。同校は現在、複式学級となっています。

児童数が多いと切磋琢磨できるといったメリットも聞かれますが、顕太郎さんも元子さんも「田舎でのびのび子育てするのが良い」と

口を揃えます。実は顕太郎さん自身も複式学級の経験者。「複式が『普通』で育ったので、デメリットは感じなかった」そうです。

【地域との関わり】

元子さんは同居生活を振り返り、「お義父さんもお義母さんも優しいし、いろいろ活動されていて面白い。子育ても手伝って下さるのとても助かります」。

対する顕太郎さんは仕事に忙しい毎日ですが、自宅では元来の子

ども好きも手伝って、入浴や着替え、食事の補助、歯磨き、トイレの付き添い…と、自分の時間は子育てに注ぐイクメンです。

「時間に余裕ができれば、もっと地域との関わりを増やしたいです。皆さんから『よう帰ってきたね』と声をかけてもらい、嬉しいです」と顕太郎さん。元子さんも、

「倉敷の方にも優しくしていただきましたが、匹見はそれ以上に連帯感が強く、地域全体で子育てをしていただいています」と感謝しています。

【移住者の心に寄り添うUターン交流会】

寺戸さん一家が暮らす匹見下地区には、地域自治組織「匹見下いの里づくり協議会」があり、元気で夢のある地域づくりに向け、

さまざまな活動が行われています。

このうち、同会の「地域活性化委員会」では平成28年10月から、概

ね5年以内に同地区へUターンした家族を招き、「Uターン交流会」を開いています。交流会では、同地区へ住んで良かった点や困った点、要望などを情報共有し、移住された皆さんの心に寄り添っています。

平成29年4月には、「匹見下ふるさとを興す会」との共催で、山菜のてんぷらやそば打ちの体験や料理を味わったりと交流を深めました。写真。



～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



くりお わさまる ゆずりん

ちょこっと匹見を体験したい方は…

◇民泊…匹見町には、4軒の民泊があります。



民泊
みよし
「三四四」

《体験内容》
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町道川イ214
Tel/Fax. 0856-58-0020



農家民泊
うちたに
「内谷とちの郷」

《体験内容》
わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験（こんにやく、わさびの醤油漬けなど）、もちつきなど

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町石谷口561
Tel/Fax. 0856-56-0589



農家民泊
ながはら
「長尾原のへや」

《体験内容》
農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、ようかん、ジャムなど）

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町澄川イ789
Tel/Fax. 0856-56-0471



林家民泊
ほんまち
「本間ん家」

《体験内容》
囲炉裏と七輪での食事作り、薪割り、薪で風呂を焚く体験など

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円
■益田市匹見町道川イ177
Tel. 090-8878-0095

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】

匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

《使用料》

施設区分	戸数	使用料(月額)
単身用(1DK)	2	8,100円
世帯用(3DK)	2	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。

(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



匹見への定住をお考えの方は…

◇UIターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことや分からないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

////// 空き家に関する各種事業 //////

空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の3分の1以内(上限30万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域づくり推進課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0305 FAX 0856-56-0362
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>